



2022年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年1月28日

上場会社名 株式会社マースグループホールディングス
 コード番号 6419 URL <http://www.mars-ghd.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松波 明宏

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 佐藤 敏昭

TEL 03-3352-8555

四半期報告書提出予定日 2022年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	11,043	0.4	1,301	60.7	2,137	93.0	1,650	188.8
2021年3月期第3四半期	11,001	36.3	809	73.1	1,107	67.2	571	68.8

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 2,618百万円 (155.3%) 2021年3月期第3四半期 1,025百万円 (58.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	98.23	
2021年3月期第3四半期	34.23	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第3四半期	59,915	54,093	90.3	3,197.95
2021年3月期	57,961	52,297	90.2	3,131.56

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 54,093百万円 2021年3月期 52,297百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		35.00		35.00	70.00
2022年3月期		35.00			
2022年3月期(予想)				35.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,000	1.6	1,900	68.1	2,800	82.6	2,100	160.2	124.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	22,720,000 株	2021年3月期	22,720,000 株
期末自己株式数	2022年3月期3Q	5,804,824 株	2021年3月期	6,020,024 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	16,806,146 株	2021年3月期3Q	16,699,976 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が発表日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症による経済的影響が、ワクチン接種の普及と政府による経済支援の効果により回復に向かいました。しかしながら、12月上旬頃から新たな変異株による感染再拡大の懸念が生じ、先行き不透明な状況が続きました。

このような状況の中、当社グループはアミューズメント関連事業、自動認識システム関連事業、ホテル関連事業の各事業を通じてお客様の「満足」を勝ち取るために新たな付加価値の追求をまいりました。また、変化する市場環境に柔軟に対応するため、持株会社体制へ移行し、各事業会社の役割や責任を明確に定め、意思決定の迅速化や機動的な事業運営を強力に推し進めてまいりました。しかしながら、長引く新型コロナウイルス感染症の影響を受け、市場は消費低迷により低い水準で推移しており、営業活動は厳しいものとなりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高110億43百万円（前年同四半期比0.4%増）、営業利益13億1百万円（同60.7%増）、経常利益21億37百万円（同93.0%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、特別利益に投資有価証券売却益11億55百万円、特別損失に投資有価証券評価損7億67百万円を計上したことから16億50百万円（同188.8%増）となりました。

セグメントの実績は次のとおりであります。

[アミューズメント関連事業]

アミューズメント関連事業の主な販売先であるパチンコ業界は、長期化する新型コロナウイルス感染症の影響と、2022年1月末を期限とした新規機への入れ替え時期が重なり、パチンコホールは周辺設備への投資に対して慎重な姿勢を見せております。新規機への入れ替えは、比較的好調なパチンコ機は予定通り進んでいる一方で、パチスロ機は難航し、また、半導体や部材不足の影響から新規機の供給も遅れが生じており、パチンコホールを取り巻く経営環境は、先行き不透明な状況で推移しました。

このような状況の中、当社グループではコロナ禍での新しい営業スタイルとして、少人数でホール運営が可能なパーソナルPCシステムと、遊技客と従業員の接触を回避するセルフPOSを活用する提案をWebセミナー等で進めてまいりました。また、遊技データ等の収集・AI分析が可能なパーソナルPCシステム「マースユニコン」を活用した効率的な経営スタイルの提案も行っていました。しかしながら、先行き不透明な状況や入れ替え期限の迫る新規機の対応等で周辺設備の買い控え傾向は強く、新規出店数が低迷しているため、販売状況は厳しいものとなりました。当第3四半期連結累計期間におけるパーソナルの売上実績は18店舗、当第3四半期連結累計期間末時点における導入（実稼働）店舗数は累計1,530店舗（市場シェア21.5%）となりました。また、パーソナルを含めたプリペイドカードシステムの売上実績は18店舗、導入（実稼働）店舗数は累計1,657店舗（市場シェア23.3%）となりました。空気の力で紙幣を搬送する業界随一のAir紙幣搬送システム及びハイスpekモデルの立体Air紙幣搬送システムは、セキュリティの強化やホール業務の省力化等の導入効果が期待されますが、当第3四半期連結累計期間においては商談案件が乏しく、販売は限定的となりました。

この結果、アミューズメント関連事業の売上高は、67億47百万円（前年同四半期比2.0%増）、セグメント利益は15億18百万円（同36.9%増）となりました。

[自動認識システム関連事業]

自動認識システム関連事業における市場は、第4次産業革命（Industry 4.0）によりIoT、ビッグデータ、人工知能（AI）、ロボティクス等が浸透し、昨今ではデジタルトランスフォーメーション（DX）の実現に向けた取り組みが広がっております。新型コロナウイルス感染症の影響により、一部で設備計画の延期や見直しがあるものの、テレワークや遠隔操作、セキュリティ関連等の需要が高まってきております。

自動認識システムは、RFID、バーコード、X線検査装置等を媒体として各種データを自動的に取り込み・認識ができるため、自動化・省人化の実現に向けて期待されております。当社グループでは特にFA市場、流通市場、アミューズメント市場、健診市場を中心に提案販売活動を実施し、展示会への出展も積極的に行っていました。また、「どこでも問診」に続き、健診・人間ドック向けの新クラウドサービス「macmo（マクモ）」シリーズとして「いつでも予約」「健診ステーションクラウド」「スマート健康経営」の3種類のクラウドアプリケーションを発表し、本格的に販売を開始しました。

この結果、自動認識システム関連事業の売上高は、33億97百万円（前年同四半期比1.3%増）、セグメント利益は3億68百万円（同22.2%増）となりました。

[ホテル関連事業]

ホテル業界は、新型コロナウイルス感染症の影響により、国内外の旅行者数が大きく落ち込みましたが、緊急事態宣言の解除後は回復基調で推移しました。しかしながら、新たな変異株による感染再拡大の懸念から、先行き不透明な状況が続きました。

このような状況の中、マースガーデンホテル博多及びマースガーデンウッド御殿場ならびに各レストランでは、宿泊客や従業員の感染予防対策を徹底しつつ営業活動を継続してまいりました。稼働率は改善の兆しが見えてきたものの、新型コロナウイルス感染症の感染状況や行政による営業活動の自粛要請等による影響度が大きく、本格的な回復には時間を要するものと思われまます。

この結果、ホテル関連事業の売上高は、8億98百万円（前年同四半期比13.0%減）、セグメント損失は4億17百万円（前年同四半期は4億8百万円のセグメント損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の財政状態は以下のとおりであります。

当第3四半期連結会計期間末の総資産は599億15百万円となり、前連結会計年度末と比較して19億53百万円増加いたしました。

流動資産は346億66百万円となり、前連結会計年度末と比較して19億59百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、現金及び預金が27億35百万円増加し259億64百万円となりました。

固定資産は252億49百万円となり、前連結会計年度末と比較して6百万円減少いたしました。その減少の主な内訳は、投資有価証券が12億32百万円減少し84億95百万円となりました。

流動負債は34億87百万円となり、前連結会計年度末と比較して2億59百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、支払手形及び買掛金が1億95百万円増加し13億61百万円となりました。

固定負債は23億33百万円となり、前連結会計年度末と比較して1億3百万円減少いたしました。その減少の主な内訳は、リース債務が1億53百万円減少し4億86百万円となりました。

純資産は540億93百万円となり、前連結会計年度末と比較して17億96百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、その他有価証券評価差額金が9億45百万円増加し6億95百万円、利益剰余金が3億85百万円増加し490億33百万円となりました。

自己資本比率は90.3%となり、前連結会計年度末と比較して0.1ポイント増加いたしました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は259億64百万円となり、前連結会計年度末と比較して27億35百万円増加いたしました。

当第3四半期連結累計期間における「営業活動によるキャッシュ・フロー」は26億84百万円の収入（前年同四半期は16億62百万円の収入）となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益24億78百万円等によるものです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は11億37百万円の収入（前年同四半期は3億65百万円の支出）となりました。主な要因は、投資有価証券の売却による収入32億97百万円等によるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は11億49百万円の支出（前年同四半期は11億40百万円の支出）となりました。主な要因は、配当金の支払額11億56百万円等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の業績予想につきましては、本日公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,228,825	25,964,225
受取手形及び売掛金	3,332,781	3,423,757
リース債権及びリース投資資産	666,760	535,052
有価証券	349,930	349,930
商品及び製品	1,569,820	1,262,395
仕掛品	157,332	300,097
原材料及び貯蔵品	1,054,945	1,180,223
その他	2,346,514	1,650,514
貸倒引当金	△341	△125
流動資産合計	32,706,570	34,666,070
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,864,314	5,673,632
土地	6,686,658	8,179,862
その他(純額)	489,278	437,405
有形固定資産合計	13,040,251	14,290,900
無形固定資産		
投資その他の資産	275,254	328,238
投資有価証券	9,728,222	8,495,447
その他	2,454,793	2,374,456
貸倒引当金	△243,121	△239,827
投資その他の資産合計	11,939,894	10,630,076
固定資産合計	25,255,400	25,249,214
資産合計	57,961,970	59,915,285
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,166,078	1,361,940
リース債務	459,539	355,839
未払法人税等	241,783	274,331
賞与引当金	345,761	159,587
その他	1,014,727	1,335,861
流動負債合計	3,227,889	3,487,559
固定負債		
リース債務	640,378	486,702
役員退職慰労引当金	191,640	205,140
退職給付に係る負債	512,588	503,258
資産除去債務	60,768	61,120
その他	1,031,668	1,077,568
固定負債合計	2,437,043	2,333,790
負債合計	5,664,933	5,821,350

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,934,100	7,934,100
資本剰余金	8,371,830	8,371,830
利益剰余金	48,647,496	49,033,236
自己株式	△12,315,383	△11,871,458
株主資本合計	52,638,043	53,467,708
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△249,865	695,684
退職給付に係る調整累計額	△91,141	△69,457
その他の包括利益累計額合計	△341,006	626,226
純資産合計	52,297,036	54,093,934
負債純資産合計	57,961,970	59,915,285

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	11,001,805	11,043,198
売上原価	4,965,107	4,777,418
売上総利益	6,036,698	6,265,780
販売費及び一般管理費	5,226,739	4,963,850
営業利益	809,959	1,301,929
営業外収益		
受取配当金	357,614	372,030
投資事業組合運用益	—	112,552
雇用調整助成金	64,356	95,507
協力金収入	—	124,041
その他	49,984	130,947
営業外収益合計	471,955	835,078
営業外費用		
為替差損	22,289	—
貸倒引当金繰入額	152,557	—
営業外費用合計	174,847	—
経常利益	1,107,067	2,137,008
特別利益		
投資有価証券売却益	—	1,155,506
土地売却益	800	—
特別利益合計	800	1,155,506
特別損失		
投資有価証券評価損	—	767,316
役員退職慰労金	—	46,668
特別損失合計	—	813,984
税金等調整前四半期純利益	1,107,868	2,478,530
法人税、住民税及び事業税	307,153	810,078
法人税等調整額	229,118	17,668
法人税等合計	536,271	827,746
四半期純利益	571,596	1,650,784
親会社株主に帰属する四半期純利益	571,596	1,650,784

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	571,596	1,650,784
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	421,645	945,549
退職給付に係る調整額	32,108	21,683
その他の包括利益合計	453,754	967,233
四半期包括利益	1,025,351	2,618,017
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,025,351	2,618,017

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,107,868	2,478,530
減価償却費	392,098	394,469
引当金の増減額 (△は減少)	△51,352	△176,184
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	23,794	△9,329
受取利息及び受取配当金	△362,888	△379,343
協力金収入	—	△124,041
投資事業組合運用損益 (△は益)	—	△112,552
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△1,155,506
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	767,316
固定資産除売却損益 (△は益)	△800	—
売上債権の増減額 (△は増加)	1,388,106	△90,975
リース債権及びリース投資資産の増減額 (△は増加)	102,098	194,245
棚卸資産の増減額 (△は増加)	31,799	157,030
営業貸付金の増減額 (△は増加)	36,214	471,025
仕入債務の増減額 (△は減少)	△477,056	195,862
リース債務の増減額 (△は減少)	△119,032	△257,376
その他	78,783	365,017
小計	2,149,632	2,718,189
利息及び配当金の受取額	363,671	379,741
協力金の受取額	—	124,041
法人税等の支払額	△850,504	△537,269
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,662,799	2,684,703
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△81,291	△1,702,597
有形固定資産の売却による収入	7,000	—
投資有価証券の取得による支出	△283,589	△403,712
投資有価証券の売却による収入	—	3,297,960
貸付金の回収による収入	86,258	93,287
事業譲受による支出	—	△206,667
その他	△93,920	58,757
投資活動によるキャッシュ・フロー	△365,542	1,137,027
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△1,140,102	△1,156,420
その他	—	6,715
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,140,102	△1,149,705
現金及び現金同等物に係る換算差額	△12,505	63,374
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	144,648	2,735,399
現金及び現金同等物の期首残高	22,371,032	23,228,825
現金及び現金同等物の四半期末残高	22,515,680	25,964,225

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。収益認識会計基準等の適用による四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自2020年4月1日 至2020年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アミューズ メント 関連事業	自動認識 システム 関連事業	ホテル 関連事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	6,614,273	3,355,226	1,032,305	11,001,805	—	11,001,805
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	473,522	42,040	24,439	540,002	△540,002	—
計	7,087,795	3,397,267	1,056,744	11,541,807	△540,002	11,001,805
セグメント 利益又は損失 (△)	1,109,049	301,315	△408,302	1,002,062	△192,103	809,959

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△192,103千円には、セグメント間取引消去3,387千円、及び各報告セグメントに配分していない全社費用等△195,490千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自2021年4月1日 至2021年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アミューズ メント 関連事業	自動認識 システム 関連事業	ホテル 関連事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	6,747,619	3,397,266	898,313	11,043,198	—	11,043,198
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	464,181	51,193	21,721	537,096	△537,096	—
計	7,211,800	3,448,459	920,034	11,580,294	△537,096	11,043,198
セグメント 利益又は損失 (△)	1,518,659	368,260	△417,214	1,469,705	△167,776	1,301,929

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△167,776千円には、セグメント間取引消去5,384千円、及び各報告セグメントに配分していない全社費用等△173,160千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。